

# BEP（ブレオ®+エトポシド+シスプラチン）

## ◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 1～5日目：24時間
- 9・16日目：30分

使用する薬	外観	点滴時間	1日目	2日目	3-5日目	9・16日目
生理食塩液 KCL、硫酸Mg (腎障害予防)		2時間	●	●	●	なし
吐き気止め グラニセトロン、デカドロン®		15分	●	●	●	
シスプラチン 20mg/m <sup>2</sup>		1時間	●	●	●	
利尿剤 フロセミド		静脈内 注射	●	●	●	
生理食塩液 (腎障害予防)		1時間	●	●	●	
エトポシド 100mg/m <sup>2</sup>		1時間	なし	●	なし	●
ブレオ® 30mg/body		30分	●	●	●	なし
生理食塩液 (腎障害予防)		翌日の 9:00 まで	●	●	●	
ソルデム3A® (腎障害予防)			●	●	●	



- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。



### ◆ スケジュール

- 21日間を1コースとして治療を繰り返します。

### ◆ 吐き気止めの飲み方

- 症状があってもなくても、**必ずお飲みください。**

お薬の名前	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
<b>アプレピタント カプセル</b>  1日目：125mg 2～5日目：80mg	  <b>抗がん剤の 1時間前</b>	  <b>1回 1カプセル 1日 1回 朝食後</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の薬剤の効果に影響を与える可能性があるため、他の病院を受診される際は、本剤を服用していることをお伝えください。</li> </ul>					

お薬の名前	用法用量、使用上の注意
<b>デカドロン®錠</b> 4mg  	<b>1回 ____ 錠 1日 ____ 回 ____ 食後</b>  <b>6・7日目</b>
<b>オランザピン</b> OD錠5mg  	<b>1回 1錠 1日 1回 夕食後</b>  <b>1～6日目</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>眠気、めまい、動悸、立ちくらみが起こることがあります。薬を内服している間は、自動車の運転などはさけてください。</li> <li>糖尿病の方、糖尿病と言われたことのある方は、この薬を服用することはできません。</li> </ul>

## ◆ 主な副作用

### 白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

### 赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

### 血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

## 【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

## ◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

### 過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

### 血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

## ◆ 点滴終了後～1週間頃

### 吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。

それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使用することがあります。水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

### 便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはる場合があります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、下剤を使用します。

### 発熱（薬剤熱）

白血球減少による感染症が引き起こす発熱以外に、薬の影響で一時的に熱が出る場合があります。

### 発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出る場合があります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。

治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

### 倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

### しゃっくり

症状が辛いときは、薬を使用することがあります。

## ◆ 1～2週間頃

### 下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

**強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。**

### 口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

**歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、乾燥を防ぐことが大切です。**また**うがい薬や塗り薬を使用**することがあります。

**がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛み**がある場合は、病院へご連絡ください。

## ◆ 2～3週間頃

### 脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

## ◆ 蓄積性の副作用

### 末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。

### 色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

### 味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

### 聴覚障害

耳が聞こえづらい、耳鳴りが続く場合は、診察時にご相談ください。

## ● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

### 間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

### 肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

### 腎機能障害

定期的な血液検査を行います。

尿量の減少、全身のむくみ

## ◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない  
下痢が止まらない  
37.5℃以上の発熱が続いている  
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00  
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター  
ナースステーション

夜間帯・休診日  
など左記以外の時間

各診療科の当直医

## ◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の  
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、  
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師